

令和2年度

自己点検・評価書  
(学校評価報告書)

附属幼稚園

## 1 附属幼稚園の現況

### (1) 学校名

大阪教育大学附属幼稚園

### (2) 所在地

大阪府大阪市平野区流町2-1-79

### (3) 学級数・収容定員

6級(1学年2級) 収容定員150人 (1学級30人 ただし3歳児は16人と14人)

### (4) 幼児・児童・生徒数

146人 (男児73人 女児73人)

### (5) 教職員数

園長(併任) 1人、副園長 1人、主幹教諭 1人、教諭 6人、養護教諭 1人、非常勤講師 2人  
事務職員 1人、臨時用務員 1人、スクールカウンセラー 1人  
栄養士 2人、調理師 1人

## 2 附属幼稚園の特徴

豊かな自然環境の中で身近な人々とのあたたかい触れ合いや、生き物たちとの日々の関わりを通して、やさしく、あたたかく、思いやる心が育つことを願っている。

幼稚園生活の主人公は幼児であり、幼児の思いや願いを大切に生活を中心としている。幼児は遊びを通して様々なことを学んでいる。遊びこそが幼児の生活そのものであり、今日の幼児の姿から明日の生活がつくり出されていく。常に幼児の今の姿を出発点として、個々の育ちや発達の状況、その時期にふさわしい遊び(生活)が展開されていくよう、努めている。

また、昭和23年より保護者手作り給食を実施しており、約70年間にわたって受け継がれている。子どもたちに手作りの温かいものを食べさせてあげたいという願いと共に、食の安全や衛生、アレルギー対応など、時代の変化に応じた給食作りを目指している。

## 3 附属幼稚園の役割

- (1) 学校教育法に基づく幼稚園教育を行う。
- (2) 幼稚園教育の理論と実践に関する研究を行う。
- (3) 本学学生の教育実習を行い、その指導を行う。
- (4) 地域社会における幼児教育の振興に寄与する。

#### 4 附属幼稚園の学校教育目標

「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」

○ 3歳児・・・喜んで幼稚園へ来る子ども

生後わずか3年しかたっていない子どもであるが、一人の人間としてすばらしい力を持ち、一人一人がその子らしさを秘めている時期である。この1年をゆったりと大好きな先生に寄り添い、自分の好きな遊びに没頭し、明日も大好きな幼稚園に行こうと思うことが、これからの保育年限における健やかな育ちを期待する上で何よりも大切なことであるとする。

○ 4歳児・・・友達を見つけて、幼稚園の生活を楽しむ子ども

友達の存在に心を揺り動かし、幼稚園では「いろいろな友達がいる」「一人より友達と一緒に生活が楽しい」「友達と関わり合って育つ」等の体験をしながら、幼稚園生活の楽しさを味わい、思う存分遊ぶ子どもに育つことを願っている。

○ 5歳児・・・友達と心を通わせ、様々な生活に熱中する子ども

心身ともにたくましく、知的好奇心もぐんと増す時期である。試行錯誤を繰り返しながら全力で幼稚園の様々な生活に熱中し、一人でも、みんなとでも「やったね」という成就感を味わい、友達と力を合わせて楽しい園生活をつくり出す子どもに育つことを願っている。

#### 5 附属幼稚園の学校教育計画

1 保育の質を向上するための研究活動の実施

研究テーマ「遊びに生きる子どもを育む～遊びの育ちを追いながら～」

2 安全・安心な園づくり

3 開かれた園組織運営

4 教育実習の指導充実・五校園連携実習の実施

6 附属幼稚園の令和2年度 重点目標(評価項目)・具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」		
学校教育計画	1 保育の質を向上するための研究活動の実施	研究テーマ「遊びに生きる子どもを育む～遊びの育ちを追いながら～」	

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びが広がったり深まったりするための教師の援助や環境構成の在り方を探る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の援助や環境構成が具体的に分かる記録の取り方を検討する。</li> <li>事例検討会や園内研修会を通して、遊びが広がったり深まったりするための教師の援助や環境構成について検討する。</li> <li>大学の教員や幼児教育関係者と連携する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の心の動きや援助が分かるように、具体的な言葉で記入し、考察することにより、記録したことを明日の保育につなげることができた。</li> <li>年齢によって具体的な援助の違いが分かった。また、環境構成を教員間で学び合う機会にもなり、保育の質の向上につながった。</li> <li>感染症対策のため、研究発表会を実施しなかった。オンラインを活用し、大学教員や研究協力員・協力者と協議する場を設けることで、研究の視点が広がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>もう少し継続しやすく、教員間で情報交換し合える記録の工夫についても考えていきたい。</li> <li>定期的に環境構成や遊びについて学び合える機会を設けることで、さらなる保育の質の向上を目指したい。</li> <li>オンラインを有効活用し、大学教員には日々の研究会議にも参加してもらえよう、働きかけていく。また、次年度は感染症対策をしながら研究発表会を実施できるよう、開催方法について検討したい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究発表会は対面の方がいいのか。ライブ配信という方法もあるのではないかと参加したいが参加できない人も参加できるなどメリットもあるのではないかと。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究発表会の実施の仕方については、来園していただくところとオンラインを使用するところと両方を組み合わせながら行っていきたい。</li> </ul>

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」
学校教育計画	2 安全・安心な園づくり

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症対策に重点を置きながら、教育活動を実施する。</li> <li>園内の環境を見直し、安全・安心な生活を送るために必要な習慣を身に付けられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症対策マニュアルを作成し、幼児の実態に合った感染症対策を実施する。</li> <li>様々な園生活や行事に置いてその必要性や教育効果を教職員間で検証しながら、実施の方法を検討する。</li> <li>安全点検項目を具体化し、より丁寧な安全点検を実施する。また、幼児にもその都度安全指導を実施し、危険を予測し考えて行動する大切さを繰り返し伝えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症対策については全体的なマニュアルのほか、様々な場面での指導案を作成し、全教職員で共通理解するようにした。幼児にも分かりやすい環境を整えたり、必要感を知らせたりしていくことで、感染症対策を行いながらの生活様式が定着している。</li> <li>園行事については教職員間だけでなく、保護者とも連携を図りながら今できる最善な方法を探ってきた。例年通りにはできなかったこともあるが、方法を変えることで、よりよくなることもあった。</li> <li>例年に比べて大きなケガが多かった。自粛生活で子どもたちの体力が落ちているのか、マスクを付けた生活だからなのか、原因が明らかにはなっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度も感染症対策を実施しながらの生活は継続すると予想される。今年度の取り組みを検証し、次年度につなげていきたい。</li> <li>感染症に関する情報をしっかりと収集しながら、さらによりよい方法を探っていく。</li> <li>危険を予測した教師の指導方法について、教職員で学び合う。また、ケガの原因について明らかにしていくことで、未然に防止できるようにしていきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> <li>マスクを着用することにより足元の視野が狭くなっていることもあるのではないかと。また、ステイホームで運動不足もあるのではないかと。</li> <li>今後の小学校生活にどう響くのが心配である。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>園の環境をさらに見直したり、活動内容を検討したりし、十分体を動かして遊べるように工夫していきたい。</li> </ul>

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」
学校教育計画	3 開かれた園組織運営

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
・保護者との連携を密にし、園運営への参画の意識を高めてもらう。	・感染症対策を実施しながらの園生活について、保護者の立場からの様々な意見を出してもらい、園運営に生かす。	・実行委員会や役員会とは連携を取りながら、子どもたちのために今できる最善のことを考え合うことができた。 ・PTA 活動や園行事縮小により全保護者に園運営に関心をもってもらったり教育内容を十分理解してもらったりすることにはつながらなかった。	・保護者の方から、もっと参加したり手伝えたりすることを言ってほしいという意見もあった。次年度はそのような意見を取り入れ、園運営に参加できる機会を多くする。	B	・各家庭の状況は様々なので、手探りで工夫して、今までのことに捉われず、その都度協力依頼しながら進めていくことが大切ではないか。	A	・次年度は感染症対策をしっかり行いながらも、より教育内容の理解につながるような取り組みも実施していきたい。

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」
学校教育計画	4 教育実習の指導充実・五校園連携実習の実施

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
・学びの深い教育実習の在り方を探る。	・実習前後の取り組みの充実を図る。  ・五校園連携実習を継続する。	・感染症対策のため実習期間が1週間削減された。そのため実習前ボランティアとして保育に参加し、交代で学び合えるようにしたことで、実習をスムーズに開始することができた。 ・五校園連携実習は貴重な機会となっている。	・実習前後のボランティア活動は今後も継続していきたい。1週間の削減は実習で学ぶ内容にも大きく影響した。次年度はやはり4週間の期間を確保し、実習生の学びへとつなげたい。	B	・他の大学でも実習に関しては、厳しかったようである。 ・実習に入る前の指導を徹底して行い、自分の将来について判断するためにも大切である。	B	・大学との連携をしっかりとしながら、次年度は通常通りの実習を行いたい。

